

鳥取県日野郡連携会議 会議録

平成 29 年 12 月 24 日(日)16:15～17:00
日野町役場 大会議室

<日野振興センター 越智所長>

それでは引き続きまして、鳥取県日野郡連携会議を始めさせていただきます。開会に当たりまして、当会議の会長であります日野町長景山様からご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

<日野町 景山町長>

皆さん、こんにちは。非常に寒い時期になりましたが、今日は、わりかし気温が高くて過ごしやすい時節になってまいりました。本日は、平成 29 年度の鳥取県日野郡連携会議を開催いたすことになりました。皆さん、本当に、今日は 12 月 24 日という日でございますとお忙しかったと思いますけれども、お集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。この日野郡っていいますと 3 町あるわけでございますが、いずれも合併をしなくて現在まできておるわけでございます。それと併せて、県の事務所がずっと以前からこの領域には地方事務所の時代からあるわけでございますけれども、この日野町の中に西部総合事務所日野振興センターという組織を立ち上げていただきまして、現在、合併しなかった 3 町ということでいろいろと協議をしながら、この中山間地を守り抜いていこうという決意のもとに、現在、進めておるわけでございます。先ほどは、災害の支援体制をきちんと協定を結んで付き合っていこうという協定が、先ほど出されました。本当に日野郡 3 町は自治体は三つあるんですけれども、一本で何事も進めていかななくてはならない。そういう宿命を持っておるわけでございます。本日は、知事さんにも集まっておきまして、いろんな意見を申し述べて、さらに中身を深めていこうという会議でございますので、皆さんのご意見・お知恵を出していただき、知事さんのほうからも、また、気づかれたことを忌憚なくお話ししていただければ、立派な会になるのではないかと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

<日野振興センター 越智所長>

ありがとうございました。引き続きまして、平井知事に開会のご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

<鳥取県 平井知事>

皆様、こんにちは。先ほどは、私たちみんな揃いまして、江府のところ 3.4 キロの新しい 4 車線の部分、付加車線化につきまして、お祝いをしたところでございます。一步一步ではありますけれども、日野郡 3 町、そして県が協働で取り組んでいる夢の実現に向けまして進んでいる、そんな日取りかなあというふうに思います。ただいまは、災害に向けまして災害に強い町づくりをしよう。これをお互いに知恵も行動も協力してやっっていこうという協定を結んだわけでありまして。考えてみますと、鳥取県西部地震の時に同じような状況を味わったわけございまして、厳しい揺れの後、そこからの復旧を目指しました。今日も協定の中に幾つかそうした項目が入っていたなあと思います。例えば、災害廃棄物。早速、私たちはそれぞれに苦勞をしました。その苦勞が活かされて、今回、中部地震では

比較的早めに始末がつけられたかと思っています。ただ、ああいうことがあった場合にどうするのか。それはお互い経験もありますし話し合っ、いろいろと準備だてをすることも可能ではないかと思ひます。また、学校の子供たちがなかなか登校できない中で、スクールカウンセリグのようなことも必要になりました。考へてみますと、学校が無事であるとは限らないわけでありまして。そうすると、それぞれの地域で融通をし合ひながら、子供たちの教育を再開するということもあるのかもしれませぬ。また、施設もそうであります。今回は、中部地震の際には、倉吉市が使えなくなりました。石田市長と夕方から夜にかけて連絡を取り合っただけであります、「どうも危険なので、庁舎に入れない」というお話がありました。たまたま、倉吉の場合は、鳥取県が総合庁舎を持てていましたけれども、耐震化も終わっており、そこは問題なく入れる。通信もできるということで、「そこにじゃあ臨時庁舎をつくったらどうでしょうか」と。そちらで災対本部を倉吉が設置をしたということになりました。この3町も幸ひ、西部地震を乗り越えたわけでありませぬけども、あの時も日南町はその後、役場が使えないということが分かってきて、建て替えざるを得なくなりましたし。また、江府町が、今ようやく新しい庁舎を目指そうかということになってはいますが、あの時も結構壁に亀裂が入ったりというようなことがございました。そんなように、私たちが過去の経験も踏まえて、施設の融通、あるいは避難者の対応、ボランティアの対応、いろいろとやれることではないかと思ひます。それに、普段の雪害などもございますので、是非、力を合せてやっていければと思ひますし、県とや仕事の内容は本来違ふとはいへ、お互いに手を組んでやれることはいっぱいありますし、協働でやらなければならぬことがあつてこの連携協約ができました。これから、雪の季節を迎へることになります。先ほど、景山町長が、今日は比較的暖かいというお話がございましたけれども、私にとってはとっても寒い一日でございまして、「江府のセレモニーも早く終わらんかなあ」と思ふぐらい、やはり下界とは若干温度の差があるようでございませぬ。そんなわけで、やはり雪に対する備えというのもやらなければならぬませぬ。是非、忌憚のないご意見も賜りながら、そしてなかなか、今、地財対策やってはありますが、結構交付税も縛られてくるような厳しい状況が見え隠れしてはる中でございませぬので。是非、知恵を出してやれることを協力しながらやっていくという、そういう志で私ども話し合へたらと思つております。どうか、今のところも酌んでいただきまして、連携協約が前に進みますことをお願いを申し上げまして、私からの挨拶に代えさせていただきます。本日は、よろしくお願ひ申し上げます。

<日野振興センター 越智所長>

ありがとうございます。それでは、以後の議事につきましては、会長であります景山町長に議長をお願ひいたします。

<日野町 景山町長>

そうしますと、座ったままで進めていきたいと思ひます。慣例によりまして、議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行にご協力をいただきますとともに、せつかくの機会でございます。度々こういう会を行うこともできませんので、活発な意見をいただき、今日は有意義な会議になりますようお願いをいたしたいと思ひます。それでは、早速、会議に入らせていただきたいと思ひます。本日は協議事項を3件、用意をいたしてあります。まず、最初の報告事項1件にいきますので、ひとつ、「災害時の給食施設の相互支援につきまして」事務局のほうから説明をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

<日野振興センター 越智所長>

それでは、協議事項の1でございます。資料1といったものをお手元のほうにご用意させていただいております。昨年の中部地震でご紹介がありましたように、倉吉の給食センターが被災されまして、長い間子供たちに温かい給食を届けることができないということがございました。日野郡3町では、それぞれが給食センターを持っておりまして、それが配送の可能なコンパクトなエリアでございます。災害時にお互いに給食を提供し合う協定を締結いたしまして、平時から連携して訓練を行うことによりまして、先ほど締結させていただきました相互支援協定の最初の具体策として行うことを提案させていただきます。お手元の資料に従いまして、坂本日野振興局長からご説明を申し上げます。

<日野振興局 坂本局長>

そうしましたら、少し前のほうのパワポをご覧くださいと思います。先ほど、所長のほうから説明しました補足みたいな形になりますけれども、中部地震を踏まえまして、少しやっぱり日野のほうでも給食の相互支援ができないかどうかということをし少し検討させていただきました。大きな点は、この給食施設が実際に調理可能なロットがあるかどうかというところがございますけれども、今、日野3町それぞれ1カ所ずつ給食センターを設けておりまして、実際に通常食数は680食。あと、まだキャパがございます、まだまだ全体で1,200食ぐらいの追加の給食は可能だといった状況が分かりました。それに対しての生徒数も530ということで、いろんな組み合わせで非常に食数的には対応できるといった状況がございます。それから、こういった給食を支援するのに一番ポイントは2点ございまして、先ほど申し上げました施設が、まず、調理可能な容量があるのかということと、それから学校給食の衛生基準というところで、実際に調理から2時間以内にきちんと給食ができないといけない。さらには、1時間半以内に検食ができないといけないという、こういう地理的な制約がございまして、この2つをクリアすれば、基本的に給食の相互支援が前進するといった状況でございます。実際、それを検証しました結果、先ほど申し上げましたように食数のところはクリアしますし、それからこの地理的制約、時間的な制約についても、各町の積み込みとか配送の時間も踏まえまして、一番遠い江府町と日南町で1時間で検食までいけるという形が分かりました。そういった意味で、この3町で相互に連携していくということが可能になってきたという状況でございます。そういったことを踏まえまして、少し中部地震の実際に倉吉であった現状を、倉吉市とかそういったところに聞き取りをしました。やはり、実際に支援を行う中で調理員の派遣の調整。直営であったり、民間に委託したりという様々な形態がございまして、それから、配食車輛をどうするのか。特に問題になったのが、コンテナで施設に上げる時の段差。こういったところが問題になったというようなこと。あと、食器類の洗浄をどうするのかということで、結構、具体の支援をする上ではいろいろこういった課題が出てきたと。それはどうしてかということ、やはりその学校の現状ですとか給食施設の現状というのが、相互に平時からなかなか共有できていなかったというような状況があります。そういった問題点を解決するためには、平時からきちんと給食支援をするという形でいろいろな、実際、現場を見たりとか、演習を行ったりということが必要じゃないかと。そのためにも、この平時からの備えができる協約を締結していくと。先ほど、包括協定を結びましたけれども、その具体的な取り組みの一つとして、個別の給食協定を結んだらどうかということをお考えしております。以上でございます。

<日野町 景山町長>

ありがとうございました。今、説明がありましたように、日野郡3町といえども、積み込みも含めて約1時間で配送ができるという、非常に有利な状況でございますし、施設自体も江府町はつい最近造られたですね。そして、日野町。日南町も新しい？

<日南町 増原町長>

改装しました。

<日野町 景山町長>

改装されて、新しい施設になっておるといことで、そういう面で提供するものでは大きな問題はないんじゃないかなと思われませんが、今、お話をさせていただきましたものにつきまして、皆さん方のご意見がありましたら出していただきたいなと思います。忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

<日南町 増原町長>

いいと思いますけども。原則的にこれについては賛成するんですけども。先ほどのキャパシティからみると、相当余裕がある。1, 200食ぐらいになっていますが。これからの、次のステップアップという話をした時に、たぶんこの学校の施設っていうのは、たぶん一次避難所か二次避難所になっていると思うんですね。どの町もですね。そこをやっぱり什器の問題とかっていうのはあるんですけども、災害時の避難者へのいわゆる配食、食事。温かいものを出せるというふうなところのメリットを活かしたらどうなのかなあと。たぶんそこにいろいろな規制があるのかもしれないし、いろいろあると思うんですけど。ただ単に、学校給食だけじゃなく、もうちょっとステップアップした、それぞれの避難所に配送できるという。1, 200人だと、はっきり言うと大抵の避難所の3町全体。下手すると、鳥取県西部地震のようなアレがあった時に、仮に3町で避難してもたぶんその程度だと思うんです。エリア的にも面積的にも施設のにも。そうした時には、そこに温かいものが出せるというのは、1食でもいいんですけども非常に大きなですね、高齢者とかにとってはメリットではないかなあと思いますので。学校給食のほうでは、一つ例えばそういうふうな提供ができて問題ないのかということがあると思いますし。それから、例えば保健衛生でいうと什器の問題。例えば発泡スチロールのものだったらOKだよとか。例えば熱いアレだったらとか。例えば配送にしてもコンテナ式だったらどうなのとかですかね、いろんなものが出てくると思うんです。その辺も、できたら将来的な課題として、今回ではなくて。今回はこれでいいと思うんですけど、将来的な課題として、やっぱりそういうふうなところを目指すというのが、日野郡らしくていいんじゃないかなあというふうに思っていますけど。

<日野町 景山町長>

ありがとうございました。非常に前向きなご提案をいただきました。江府町長さんは？

<江府町 白石町長>

うちも給食センターが新しいものですから、この協定の話が出る前には子供たちだけじゃなくて、もっと広く提供できないかなっていう話を中で、それをやったことがありまして。その時に担当課のほうで、結構厳しいことを言っていましたね。「無理じゃないか」み

たいな。要するに、文部科学省のほうのお金を使ってやっているんで、なかなか厳しいのではないかっていうのを1回議論したことがあります。ただ、今、さっき増原町長もおっしゃいましたけど、これから人口減少の話もありますし、やっぱり施設を有効に活用する意味からもそういう面もやっていったらどうかと。その前段として、今回の給食。学校にやってみると。しかも、それはやっぱり練習しておかないと、たぶんうまくできないと思いますので、そのあたりを常日頃からやっておくというのが大事なかなというふうに思いました。

<鳥取県 平井知事>

3町長さんの本当に前向きなお話で感激をさせていただきました。確かに増原さんがおっしゃるように、これだけのキャパシティがあれば、避難所の食につきましても賄えると思いますし。我々も今度の中部地震の後で反省でやったわけではありますが、やっぱり集会所ごとぐらいにみんな集まっちゃうんですね。たぶん日南とかかなり奥が深いですから、「学校まで来い」って言うと、なかなか避難所まで出て行くのは大変だというお年寄りが多いわけでありまして。その辺は配達して歩くようなことをですね。白石さんがおっしゃるように、練習もしてやってみるといっことはとってもいいんじゃないかなと思います。それで、2つほど付け加えてさせていただければ、倉吉の今度の時も給食センターが潰れた後、なかなか動かないんですね。私どもも正直、傍で見ていてヤキモキすることもありますし、いろいろと例えば外と繋ぐことをやったりします。今回もJA西部の女性会が結構給食作りに行ってくれたりしています。1つにはそういうふうに外部から結構いろんな食材を持って来られたり。例えば、今回、倉吉も1日目はパン屋さん。比較的早いわけですね。ですから、パンと牛乳だけで、まず1日目はやって、その次の日は、徳島県からカレーのインスタントの給食キットを持って来られて、それをみんなで食べた。だから2日目はカレーだったんですが。そんなように、実は、特に災害の初動は、自前で食材を調達するのは難しいかもしれません。逆に外から持って来たり、手伝ってもらおうほうが自然なのかもしれません。ですから、その辺を想定しながら3町がいいのか、あるいは何だったら県のほうでお願いしてもいいんですけど。そうやって誰かが調整をして食材のことや、あるいはボランティア的に手伝ってくださる方とか、その辺を想定してはどうかというものが1点でございます。あともう1点は規制緩和とか、あるいはちょっと先ほども白石町長がおっしゃいましたけれども、いろいろと規制。担当課へ持っていくとだいたい難しい話になる。で、ございまして、それを何とかする意味でも規制緩和とか、あるいは何かこう特区的な話をやはり国とかとも、あらかじめ調整しておくというような手もあるのかもしれない。恐らく、今回、中部地震でなかなか動かない一つの理由は、やっぱり料金の問題があるんだと思うんですね。その給食をこうやって他所と一緒にやった場合に、あとは最後、精算しなきゃいけないとか、親御さんの負担があるとか。さらに今日のお話しであれば、せっかく作るんだから避難所にも持って行こうというようなことにした場合、そうすると災害救助法で出てくるような、そうした食事との関係だとか、何かこの辺の上手い調整を考えられないかなあと思いつつ、今、伺っていました。確かに、いろいろと法律等でがんじがらめになっているところがあって、少し規制が厳しいところは解いてもらったり、あらかじめした上で、何か約束事を決めておいて。もう、とにかく、地震が起きたら作るだわいやと。配って食べようと。あとは、遅ればせながらどこかで精算しますというようなことをシステムとして作っておけば、割と動きやすいんじゃないかなというふうに思いました。

<日野町 景山町長>

はい、ありがとうございます。今、町長さん方、知事さんからお話がありまして。まずは、学校の給食から手始めにやってみるというのは、非常にやり易いことかもしれませんが、ひいては災害が起きた時にどう対応するかというの、また次のステップとしてやってみる。まずは、学校給食で始めてみて、そこでいろいろ問題点を検証しながら、次のステップを踏んでみようというご提案でございましたので、この件につきましては、今お話がありました方向でもって、やっぱり食べ物は温かいものの方がいいわけですので、みんなの知恵を出し合って、この日野郡の3町を。ということで締めくりたいと思いますので、どうかよろしくお願ひします。そうしますと、協議事項の2つめの項目であります「日野郡内の道路除雪のあり方の検討について」事務局のほうからご説明をお願いいたします。

<日野振興センター 越智所長>

そうしますと、協議事項2の資料2をご準備いたしております。日野郡におきまして除雪任務といったものは、冬場の住民の皆様の行動を確保して日常生活を保障するとともに極めて重要な任務でございます。幸い、現時点での日野郡の除雪体制はとって高度なレベルで機能いたしておりますが、除雪オペレーターの問題でありますとか、あるいは高齢化や人口減少といった集落の弱体化といった問題がございますので、将来に向けて、現場で実際に除雪している方の参加を得た専門組織を作って、リアルな課題を抽出して持続可能な除雪対策検討を開始することを提案いたします。資料に従いまして、三鴨県土整備局長のほうからご説明を申し上げます。

<日野県土整備局 三鴨局長>

それでは早速ですが、郡内のオペレーターの推移の表から見ていただきたいと思ひます。グラフにしておりますけど、左端が平成25年に調べたところになっていて、オペレーターの数としては計164名いらっしゃいました。この色が年代別の構成でございます。メインは60代50代が中心になっているという状況でございます。今年調べました、自然減によりまして、合計157名まで減少しておりました。ただ一方で、平成27年、3年前から若手技術者の免許取得支援といひますのを県と3町で行っておりまして、これによりまして、新たに免許取得された方が29名ございます。それを加えますと、計186名になります。しかしながら、この全ての新しい方は、すぐに除雪ができるわけでもございませぬし、従事できるわけでもございませぬ。一人前になるのに、5年かかるとも言われているところがございます。そこで、免許取得だけじゃなくて新規取得者につきまして、技術を向上しようという研修を始めております。今年初めて10月、県下で行いまして、引き続きまして、県下全体に広がっていったという状況でございます。ただ、その個人だけではございませぬ。オペレーターといった個人に対する取り組みも勿論なんですけれども、オペレーターを支える組織、いわゆる会社とか法人です。こういった方の力がないと有効な除雪はできないうし、将来にわたって持続的な除雪体制を構築することはできません。やはり、会社もしくは仕事に対して魅力がないといひませぬし、労働安全はもう当然でございます。その他、会社につきましても、やはり会社の力、経営の安定化というのは非常に大事になると思ひます。さらに言ひますと、除雪をみんなで一緒にやっついこうという地域の力。これはもう絶対欠かせないものがございませぬ。路上駐車抑制は当然でございますけれども、玄関先の除雪ですとか、みんなで協力し合おうと。こういった

体制を作るっていうことも非常に大事だというふうに考えております。こういった、個人・組織・地域、それぞれの問題点と課題を掘り下げまして、その対応策を検討することによりまして、改善の方向を見い出していこうというふうに考えております。実際に、どこがこういうのを検討するかということで考えております。これまで、ここもそうなんですけども、行政が中心になって議論してきたわけなんですけども、行政だけでなく、実際に現場で除雪業務を担当する方々にメンバーに加わっていただいた専門検討組織を創設しようというものでございます。そこに書いていますけど、3町のほかに除雪実績のほうから法人ですとか、あるいは個人。さらには建設業協会の方にも加わっていただきまして、現場感覚を踏まえた検討課題の抽出。さらには、現実的で実効性のある対応案を検討していこうというものでございます。少し、今考えています検討課題の例示として示しております。時間の関係で一つ一つは省略いたしますけども、こういった具体的な検討の課題から、しっかりと議論していきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

<日野町 景山町長>

はい、ありがとうございます。日野郡、この中山間地の日野郡において、この除雪というのは非常に大きな課題になっております。これが上手くいくかいかんかによって、そこに住んでおる住民さんの、あるいは山陽から山陰に来る主要幹線で物流が止まってしまうとか。非常に重要なものであるということは、最近の昨年ですか。昨年って、この冬ですか。県東部でも起きたようなことが、この日野郡でもいつ起こるか分からないというのが実態でございまして。今、局長さんのほうからご提案がありました、そういう除雪に対する体制を諸課題を解決するための課題を、これから日野郡、この連携協約で取り組んでみようというお話がございました。皆さん方のご意見を賜ってみたいと思います。まずは、一番よけえ雪の降る日南町さん。失礼ですかいなあ。ありましたら。

<日南町 増原町長>

まあ、雪降りますんで、除雪体制としては凄いい自信を持っているんですけども、逆にですね。ただ、ちょうど昨日、実はちょっと、年末の挨拶回りで地域を回ったんで、上萩山という一番島根県寄りのところを回りましたら、ある一人暮らしのおばあさんが、一番いま困っているのはやはり除雪だと。それは、家の表じゃないと。表は何とか、例えばボランティアにやっていただけると。家の裏側なんだと。まあ、非常に大きい家なんで、そこに、裏側にどんどん雪が溜まってくると、窓が割れたり屋根が落ちたりするというふうなことがあって、業者の方に頼むんだけども、当然危ないと。やはり大きな屋根ですし、近頃の方々は若い方々も一人屋根に上って雪かきをするなんてことに慣れてないわけですので。そういう方々に頼んでも、例えば一人の方が、例えば労災で亡くなると、その会社自体も廃業に追い込まれるというふうなことも有り得るわけでありまして。そういうふうなところで、一番困っているのはそういうところだというふうに言われて。これについては、なかなか難しいなというふうに正直言って思いました。「早期に頼んでもらって、できるだけ雪が溜まらないうちに、下を搔いてもらうようなことを頼めませんかね」っていうことで、とりあえずお願いはしてきましたけども。でも、その時に例えば「雪が落ちてきたら怖いよなあ」とか、やっぱり思うわけでした。なかなかその辺のところ。道路のほうはそんなに問題はないにしても、いわゆる生活の中での除雪という話をした時に、そういう一つの問題があるなというふうに思っております。鳥取市のように職員が例

えばよく「除雪します」というふうな話で、少しの時にはできるんですけども、日南町のことになると、役場の職員自体もいつですね、命がけの作業になっちゃいますので。なかなかそれを職員に強いるということもできませんので。なかなかこの辺が非常に、これからのいい方法は何かないかなあというふうなことをよく考える。昨日はちょっとそのことをよく考えましたので。そういうふうなことも、この除雪の中の課題として一つ取り上げていただければ、住民の力のボランティアの中で何とかできればなあなんていうふうに思っています。

<日野町 景山町長>

はい、ありがとうございます。江府町さんもたくさん雪が降るところでございますので。

<江府町 白石町長>

特に、今年の1月・2月の大雪で、江尾のまちなかとかが結構パニックになりました。ガタガタに道がなくなってしまっ。結構、空き家も多くて、それぞれがおられても高齢化していて、まあ、自分らもやるんですけど。自分らが割と若いほうなんで。本当にもう中にいない、人がいない状態。それと、あと、デイサービスとかに行かれる人が、やっぱり車が来るけど、なかなか家の前まで入れないみたいなこともあって、一生懸命掻いとんなーですね。その人も結構、高齢化してきて。でも、何とかして欲しいという話がありまして。これ、やるなら地域力をアップするということと、その中でやっぱり小型の除雪機械が、ある程度、集落のポイントポイントに配備して、やりやすくできないかなあというのが一つ思いました。特にまちなかの辺ですよ。山のほうは大きなのでガーッと掻いてしまえば結構いけると思うんですけど、まちなかはもう人手が足りなくてとてもできん何てことがありますので。ひょっとしたらもう制度があるかもしれませんが、そういうことで県のほうにもお力になってもらって、町もやって、集落でそういうのを自分たちでやるっていう、そういう形ができないかなあと考えたところです。

<鳥取県 平井知事>

非常に深刻な課題でありまして、どうしても豪雪県でありますから。特に日野郡は雪深いところですよ。先ほど、増原町長もおっしゃいましたけれども、思い出しますのは、平成23年のお正月に大変な雪が降って、境港や米子は大変なことになった時に、増原町長がおっしゃっていましたが、「うちだったらあんなことにならん」と。やはり、除雪体制が普段からしっかりしていて、道路を掻く除雪機もそうですし、また、技術者も充実しているということでありまして。そういう意味ではパイオニア、先進地なんですよ。だから、そういう意味で一つ、一枚上を行っておられるんですけども。ただ、生活が果たしてできるかということは、また次の課題でありまして。そちらのほうまで、また考えながらこの除雪体制というのを見ていく必要があるのかなと思います。隣の伯耆町さんでは上手く集落の中に除雪機を置いて、それを多分、県が半分出すのかな。何か補助金制度もありまして、多分そういうのを活用しているんじゃないかと思っておりますけども。それを割と早くから集落の人の、言わば助け合いの仕事の一つとしてルーティン化しているということもございます。何かそんなようなことを一つやるっていうのも手なのかもしれません。また、若桜町さんでは、あそこは早くから援農隊みたいな、除雪を支援するボランティアネットワークが町外も含めてございまして。特に、先ほどお年寄りのお話がありましたけ

ども、お年寄りの家周りなどを、そういうところを掻く。こういうような人たちも組織しているところもあります。いろいろと今の制度の延長でできることもあると思いますし、また、だいぶ高齢化も進んできて、心配なのは空き家が増えてきていることもございますので、防災的な問題もあり、なかなか厄介だろうとは思いますが。実はこの度、新潟大学と私ども協定を結びました。新潟の場合は、我々とは違って1メートルとか2メートルとかという雪の中で防災対策をやっていますので。もし可能であれば、その新潟大学の研究センターともタイアップして、一度その施策の点検をしたり、知恵を交換してみるというのも手かなあとと思います。これはこれで進めていただければと思いますし、特にその地域のところ、ここをもう少し膨らまして、今、各町長さんがおっしゃるようなことにも対応していったらどうかと思います。

<日野町 景山町長>

ありがとうございました。実は、道路も本当に大切なことだし、オペレーターが高齢化して、高齢化しておるって言いますが、オペレーターの優秀な方は高齢化されるんですね。経験が深い。ですから、60、70の人にももうちょっと頑張ってもらいたいということで、今、日野郡ではこういうような取り組みを進めてもらっております。お話にもありましたように、2年や3年でこれが可能かっていったら、そんなことは絶対ありませんで、10年もかかるとは思いますけども、こうして着実に日野郡は県と一緒に町村の技能が上がってきている。日南町なんかは、町を挙げてこれらの取り組みをやっている先導町ですので、それらを見習ってやっていかなければいけないなあと感じております。さらに高齢化が進んで、家からもう雪が降ったら出れないということで、日野町におきましては、地域おこし協力隊の皆さんとか、その地域の皆さん、民生委員さんとか、そういう方たちが除雪隊を結成しまして、実は掻いておるんです。それによりますと、この冬は2日に1回は出動したというくらい、非常に住民の皆さんに頼られておるということで。我が町におきましては、ロータリーの除雪機を地区で互譲の精神で買っていただいで。そうすれば、町が2分の1を補助しますという制度を今年から設けて、早速、自治会で購入希望。その代り、だいたい50万ぐらいの除雪機を買ってくださいと。10万や20万じゃあ壊れちゃいますんで、50~60万ぐらいの除雪機を買っていただきたいということで取り組んでおります。高齢者の皆さんが、家に閉じ込められちゃいますと精神的にももの凄く不安になりますので、これは皆でやっぱり掻いてあげる。そして、声掛けが一番でして、「どげしちょーな一だ、元気でやっちょーな一かや？」というね。「ちゃんと飯食っちょーな一かや？」というようなとかね。「お医者さんは大丈夫？」とか、そういうような声掛けを地域を挙げてやってあげることが非常に大事だと思いますので。今お話がありましたように、道路除雪だけではなくて、この連携協約の中でそういう地域の住民さんを守ると。いかにして守ってあげるのかっていうことも、一つの検討の項目の中に入れていただければ、より住みやすい。ひょっとしたら、「いいところだけん、日野郡に行きしてみようや」とか、「年とったら、帰りたいなあ」とか、ということに繋がればなあと思っております。だいたいそういうあたりで、さらに進めてみたいと思います。道路の除雪は最大の課題であります。特に私が言いたいのは、県のオペレーター運転手さん、これの力量は非常に私は高いと思っております。日野郡に配属されていらっしゃる方の力量は県下で最高であります。なら米子が悪いかって言いますと、米子は本当に悪いです。昔は「郡界橋」というのがありまして、郡界橋から日野寄り路面が綺麗に掻いてあるけれども、米子の方の細見に入りますと、もうこんなことになっておって。その当時、私も

局長をやっております、恥ずかしい思いをいたしましたのを今でも思っております。やっぱり日野の県土整備局は、除雪ができる人は残していただきたいな。ということを知事さんをお願いをいたしまして、次に移らさせていただけたらと思います。そうしますと3点目ですね。3点目の議題につきまして、ご説明をさせていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

<日野振興センター 越智所長>

はい、それでは協議事項3点目でございます。「福祉避難所の設置運営に関する連携について」ご説明申し上げます。先ほど来、お話がありましたように、平成12年度の西部地震で日野郡3町は震度6を経験いたしまして、防災対策の重要性を強く認識いたしておりますが、人的・物的な資源が限られているといったことで、具体的な検討が進んでいないといった分野もございます。とりわけ配慮を要する方の避難といった問題につきましては、個々の障がいに応じた対応、あるいは医療ケアといった専門的な課題がたくさんございまして、一つ一つの町での検討といったものには限界があるために、西部福祉保健局のご協力もいただきまして、3町と併せて対応策を考えて準備を進めることを提案いたしております。資料に従いまして、古都西部福祉保健局長からご説明申し上げます。

<西部福祉保健局 古都局長>

それでは、よろしくお願ひいたします。災害時の住民避難の支援の関係でございますけれども、こちら図にありますように、特に高齢者、障がいのある方々、避難行動要支援者については各町で把握をされまして、それで支え愛マップの作成等を通じて、体制づくりを進めておられるところでもありますけれども、災害が発生しますと、福祉避難所の速やかな設置ですとか、避難スペースの確保、こういったことが必要になってまいります。改めて、福祉避難所でもありますけれども、避難後の要配慮者の拠点となるのが福祉避難所でもありますけれども、運営面におきましては障がいなどの特性に応じて、様々な専門職・環境、それから備品などの整備が必要になってきますので、平時からこういった備えが必要であるというものでございます。こういった状況の中で、日野郡なんですけれども、避難所の指定状況でありますけれども、日南町さんは9施設を想定して現在検討中でいらっしゃいます。それから日野町さんは町施設、それから福祉施設を中心に7カ所を指定していらっしゃいます。それから江府町さんは、総合健康福祉センターを指定していらっしゃるという状況なんですけれども、各町が抱える問題ということで、指定したい施設が危険区域にあるというふうな場所の問題がございましたり、バリアフリー化が不十分である、受け入れ体制がちょっと明確な検証ができていないですとか、備品の整備が進んでいないといった物的な課題。それから専門職も含めたマンパワーが全体的に不足をしているというような人的課題に加えまして、その他、運営面の不安等がありますので、広域的な連携を念頭に3町が一緒になって、日野郡の福祉避難所のあるべき姿を検討してみたいというのが、この度の関係でございます。具体的内容でございますが、新たなワーキンググループを立ち上げたいと思っております。3町の福祉、保健、それから防災の関係に加えまして、福祉保健局を加えたところでコアメンバーを設定をいたしまして、郡内の福祉事業者のご意見を伺いながら、あるいは県の防災の担当の協力を得ながら、検討を進めていくというふうなことで考えてございまして、現在想定をしております検討内容といたしましては、3町が連携した人的・物的な相互協力体制といったようなことで、3町と県が協働して効果的な福祉避難所の体制を検討していきたいというふうなことで考えてございます。以上です。

<日野町 景山町長>

ありがとうございます。今、福祉避難所というのが非常にクローズアップされておまして、一般の避難所とはまた別の性格を持っておりまして、各町とも苦悩をしておるっていうのは実態だと思います。これらにつきまして、町長さんのほうからご意見を賜りたいと思います。

<日南町 増原町長>

日南町ですけど、まだ指定をしておりません。だいたい、各まちづくり協議会といひますか、各地域に1カ所ずつと、中心地に2カ所ぐらいというふうに考えております。具体的には今年の新年度の建設になると思うんですけども、社会体育館を完全に木造で建てるということをしておりまして、その中に福祉的な施設のシャワールームとか、それから広めのシャワールームとか、それから例えば防災関係の備蓄関係というふうなことも整備をしたいと思っておりますので、またそういう中で今回のプロジェクトの中で、このメンバーの中で「こういうものがあつたほうがいいよ」というふうなことがありましたら、是非、その中で話し合つていただきたいなあとというふうに思っております。2カ所ほど、福栄地域で生活環境センターに約1億円。それから、中央部の小学校の隣のところに社会体育館6億円というようなものを一応計画をしておりますので。これが新年度の建設になっておりますので、その辺のところに福祉避難所的な機能を、是非持っていきたいなというふうに思っております。

<江府町 白石町長>

江府町ですけど、うちも1カ所ということで、なかなかハードもそうなんですけど、やっぱり人的な体制が整えるのが難しいんじゃないかなあとということがちょっと困つています。ハードでいくと、江尾のまちなかには福祉センターがあるので、それでいいかなと思ひますけども。今、いろいろと日本財団さんとの絡みもいろいろあつて、旧俣野小学校なんかも、一つ、今まだ詰まっていますけど、考えているところです。そんな形でハードのほうはいろいろ考えていったにしても、やっぱり人の問題がちょっと苦しいなあとということがありまして、そのあたりは何とか一緒に考えを作つていただけたらというふうに思ひます。以上です。

<鳥取県 平井知事>

両町長さんがおっしゃつたこと、そのとおりでと思うんですね。今回、前の西部地震の時はあまり福祉避難所っていう概念は余りなくて、それでもまあ何とかやつていたという状況なんですけど。今回は地震がありました時に、実は福祉避難所の準備はしてあつたんですね。ちょっと報道等でそこはいろいろ出ていたところでもありますけども。倉吉市だけで30カ所以上、協定も結んで福祉避難所になるはずだつたわけですが、ただ、その当該施設が、入所者もパニックを起こしますので、その人たちを落ち着かせることだけでも大変なことをごさひまして。結局、そこに「じゃあ別の何人引き受けるの？」つていうところが結局うまくいかなかつたわけですね。ですから、それに反省して、今、例えば介護福祉士さんであるとか、そういう業界団体と協定を結んだところをごさひまして、初動の時に町内から人集めをするのは多分無理だと思うんですね。ですから、手伝いに来させると。そこに、ただスペースはちょっと用意をしなきゃいけないと思ひますし、機材も用意しとかなきゃいけないと思うんですけど。そういうところにDMAT（ディーマツト）

の介護福祉版というようなものを組織したほうがいいのではないかなあと、今、そうした業界団体と話をしております、このスキーム作りと併せてやっていけばいいのではないかなあというふうに思います。今、それぞれで福祉避難所をまずは指定をし、体制をとっていただくことが大切だと思いますし、それと併せて各町長さんともご相談申し上げて、これ相身互いでありますので、県の東部・中部・西部を通じて派遣してくるような、そういう体制をまた別途考えたらどうかなあと思います。

<日野町 景山町長>

ありがとうございました。これは非常に、これまでは簡単に福祉避難所っていうこと出てくるんですけども、現実的には人だと思えますし、人がいないととてもじゃないが受け入れることはできないということで、福祉の施設だけではなくて医療関係とも連携を取り合うということで、これからの大きな課題でございますので、今日は古都さんも上がって来てくれとりますので、あなたの生まれ故郷のことを頭に入れて、一所懸命取り組んでいただけたらと思えますので、いろいろ知恵を3町にも出していただいて、お願いできればと、こう思っております。本当に困った人を助けてあげるっていうのが、我々行政の使命でございますので、そのあたりをこれからだと思えますのでよろしくお願ひしたいと思えます。だいたいそういう点で、また一緒になってお互い助け合っていきたいと思えます。そうしますと、次の教育のほうの議題にしたいと思えます。説明方、よろしくお願ひします。

<日野町 砂流課長>

それでは、失礼をいたします。教育ワーキンググループでは、日野郡の小中学校が抱えております小規模校であるがゆえの課題につきまして、その解決に向けて3町で連携して取り組んでいくことが効果的であるというふうに思われる4つの項目について、検討をしているところでございます。これらの課題のうち、中学校長会からも要望をいただいております部活動支援。こちらにつきまして、今年度から具体的な取り組みをしているところでございますのでご報告申し上げます。ここ数年、生徒数の減少に伴いまして、1校単独ではチーム編成ができないため、合同チームを編成して大会に出場している部が幾つかございます。現在、日野郡内3校でチームを編成しておりますのが野球部。日南中と日野中とでチームを編成しておりますのが女子バレーボール部でございます。ほかにも郡外の他町の中学校と合同チームを編成している部もございます。他校で合同練習をするための移動につきましては、その多くは保護者の送迎に頼っているため、保護者の時間的、経済的負担。あるいは我が子以外の生徒を乗せていた時、万が一事故が起こった時、その時への対応。こういったようなことなどを考えますと、非常に過重な負担をかけることになっているというふうに思っております。教育ワーキンググループでは、生徒が自分の力で通える学校などで練習できるというのが、部活動の本来の姿であるというふうに考えまして、合同練習会場への移動について、生徒一人でもそこへ行くことができるような支援をいただけないかということ、各町にお願いをさせていただいたところでございます。その結果、各町にご理解をいただきまして、週1回程度行われる合同練習会への移動に伴う費用の助成や、公用車での送迎などの支援をこの秋より始めていただいたところでございます。この取り組みによりまして、各校において部活動の選択の幅をある程度保ちながら、義務教育の一環である部活動がより充実したものになるというふうに考えているところでございます。以上、簡単ではございますがご報告申し上げます。

<日野町 景山町長>

はい、ありがとうございます。生徒さんが本当に減ってきた日野郡ならではの悩みでございまして。しかし、そういう生徒さんにも活動の楽しみ、そういうものはさせてあげたいという強い思いで、今、支援をできるところからやっておるということでございますが、これについて町長さん方のご意見、いろいろとご検討していただいたと思うんですけども、お願いいたします。

<日南町 増原町長>

今、既存の予算でやっておりますけど、なかなかこの辺しか難しいのかなあというふうに思っています。公用車というふうな話になっても、どの程度乗られるのかっていう話もあったり、帰りの時間。そして、その学校からまた自宅までのことを考えると、なかなか難しいのかなと。日南町の今の事例では、実際には例えば、今年も中学生が男女とも県の駅伝大会等に出られたんですけども、そのために町営バスもやったんですけど。実際からいうと、30人乗り、40人乗りのバスに1人とか2人というふうな形になると、やはりB/C（ビーバイシー）で考えるとちょっとおかしいなあと、やはり思いますので。できる限り保護者の方々に対する支援というようなところで収めていきたいなあと、今は考えておるところであります。また違った形で、当然、子育て支援というものの一環になると思うんですけど、また違った形であるというふうに思っていますので。それぞれ全てにあたっているとなかなか「見えない化」といいますか、していくような気がしておりますので、「見える化」の中での支援というふうな形で、また違ったほうの支援を考えていきたいというふうに思っております。今のところ。

<江府町 白石町長>

中学校の部活の関係は、やっぱりそのお手伝いはしていきたいというふうに思っておりますけども、うちの場合は公用車でやっているという。公用車がある限りは公用車でやると。ただ、どこかでやっぱり転換する時が来ると思います。今のところは現状でいくのかなというふうに考えています。以上です。

<日野町 景山町長>

そういうことでワーキンググループでいろいろ検討していただいておりますが、実は教育委員会の中でやっとなーな一わな、ワーキンググループをね。また所長にもいろいろ意見を聞きながら進めていってもらったらと思いますが。知事さん、どうですか。初めて聞かれた？

<鳥取県 平井知事>

いや、まあだいたい。部活が難しくなっているっていう話は伺ってまして。確かに野球やバレーボールだとか、サッカーになってくると、人数がいないとチームにならないというわけでありまして、深刻な課題だと思います。今、是非、話し合ってください、そういうお互いに子供たちのために、部活のチャンスを作っていただけると有難いと思います。また、県のほうでも例えば人材として、部活動の外部コーチ等を、そういう派遣の事業等も出てきていますので、また考えていただければと思いますし。国も、今回、人づくりの中でこうした部活動とか、教員のサポーターのような仕組みも作ろうとしていますので、ちょっとどうなるか分かりませんが、その辺、情報も収集して協議していきたいと思

います。

<日野町 景山町長>

ありがとうございます。本当に部活ができなくなったということで、いろいろと学校も悩んでいらっしゃると思うし、生徒の気持ちもあると思いますので。何か良い知恵を出していただくということで、引き続きよろしくお願いをしたいと思います。だいたい、今日予定しておりました事項は一応終了させていただきましたし、時間もそれなりの時間になってまいりました。本当にいろいろたくさん意見を出していただきまして、ありがとうございます。やっぱり日野郡は日野郡3町、そして県も含めて一所懸命知恵を出し合って、この地域を守っていかないかんという熱い気持ちは持つておるわけでございますので、空振りにならないように、住民さんが「ああ本当にこの地域に住んで良かったなあ」という気持ちを持てればなと思います。今日の限られた時間でございましたけれども、連携会議を振り返っていただきまして、知事さんのほうからお言葉をいただけたらと思います。よろしくお願ひします。

<鳥取県 平井知事>

本日は素晴らしいご議論をいただきまして、随分また具体的なパートナーシップも深まったと思います。本県も入らせていただきまして、全国に珍しい連携協約でございますので、実が上がるように今後ともご手配賜りますようお願いを申し上げます。今日、こうした限られた時間の中でだいぶ深めてくださいましたけれども、景山町長におかれましては、ご勇退されるというようなお話も伺っているところでありまして。本当に今年一年、大変お世話になりました。皆様、是非、良いお年をお迎えなさいますよう、お祈りを申し上げます。本当にありがとうございました。

<日野町 景山町長>

ありがとうございました。知事さん、本当に最後をまとめていただきありがとうございました。本日の議論をもとにしまして、日野郡ならではのこういう取り組みを全国に発信できたらなど、こういうふうにしておるところでございます。何事も積み重ねが大切でございますので、今まで以上に3町と県と力を合わせて、日野郡に住んでいただいております皆さん方のために頑張っていきたいと、こういうふうにしております。本日は、大変皆さんお忙しいところありがとうございました。また、今後ともよろしくお願ひします。

以上